

2022年4月21日

会員各位

アルブミン懸濁型パクリタキセルの出荷停止の影響により静注用フルオロウラシルの流通量が不足しております。本薬は先発品を協和キリン株式会社が、ジェネリック薬品を東和薬品株式会社が製造販売しておりますが、いずれも2021年8月頃より出荷調整を行い、新規契約を見合わせるなどの措置をしていることが2社のホームページなどで広報されています。

一部の会員からの情報提供により、この問題により既に治療に深刻な影響が出ている施設があることが分かりました。

これを受け、メーカー2社へのヒアリングなどを行った結果、2社ともに、

- 1) 供給量が不足しつつも、各施設の出荷調整開始前の出荷量を元に特約店への出荷を継続している
- 2) 従って、これまでの出荷量の実績により施設毎の出荷量に差はでるが、施設の規模や形態による差別は行っていない
- 3) メーカーや特約店に在庫を置くことはせず、製造されたものは直ちに流通させている

ことを確認致しました。メーカーの増産体制には限界があり、また独占禁止法により特約店などを介した施設間融通ができないため、しばらくは特別な解決策は期待できないと思われまます。

一方で、現在の各施設へのお荷量は出荷調整開始前のお荷量を基準に決めているため、患者数の動向により不足が深刻な施設と比較的余裕がある施設が生じている可能性があります。

そこで、大変差し出がましい限りですが、会員の先生方には以下のようなご提案をさせていただきます。

- 1) 全身状態、臓器機能、患者の病態など、薬物療法の医学的適応に応じて、フルオロウラシルのより一層の適正使用の推進をお願い致します。
- 2) 不足によりフルオロウラシルが使えない場合は、医学的に妥当な範囲で代替レジメンの使用をご検討下さい。
- 3) 状況によっては、余裕のある近隣の施設に患者を紹介することもご検討下さい。

以上となります。

公益社団法人日本臨床腫瘍学会
理事長 石岡 千加史
保険委員長 滝口 裕一
保険副委員長 沖田 南都子